

1年言語と文学 (MYP 2 Language and literature) 【国語：4単位】

科目のねらい

MYP「言語と文学」のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A: 分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。
B: 構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C: 創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D: 言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル(文体)	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 (【 】内) および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. ものの見方 2. 個人的表現と文化的表現 3. 批判的思考	【意見をもつ】 自身の考えを持つために、必要な知識分析の方法や伝えるための表現方法を習得し、より意見を明瞭化させ伝える。 〔知識及び技能〕 第1学年 (1)ア(2)ア・イ 〔思考力、判断力、表現力等〕 第1学年 A 話すこと・聞くこと ア・イ・ウ・エ・オ C 読むこと エ・オ	自身に必要な ATL スキルについての発表 【A】ATL スキルと自分自身を分析し、そのスキルの必要性について根拠をもって説明する。 【C】選択した ATL スキルがどのような場面で活用できるのかを実例を提示しながら主張する。また、課題を成功させる創造的なプランを作成し、振り返る。 【D】状況に応じた声の大きさ、アイコンタクトなどを適切に使い、主張がより伝わるように表現する。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. A-3
	2	1. つながり 2. 個人的表現と文化的表現 3. 整理整頓	【根拠をもつ】 自分の意見に根拠を持つために、または他者の意見や根拠を批評するために、事実やテキストがどのように解釈されて主張につながるのかを整理する方法を理解する。 〔知識及び技能〕 第1学年 (1)ウ・オ(2)ア・イ(3)オ 〔思考力、判断力、表現力等〕 第1学年 A 話すこと・聞くこと イ・ウ・エ・オ B 書くこと ア・イ・ウ・オ C 読むこと イ・ウ・エ・オ	三角ロジックを活用した読解プロセスの可視化 【A】根拠や理由づけを効果的に活用し、自身の読解を正当化して表現する。 【B】主張・根拠・理由づけを適切に分類し、自身の読解プロセスを正確に構造化する。 【C】関連する根拠を豊富に選択し、鋭い理由づけによって高度な読解を創造する。	1. ①知識・技能-B ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. A-5
	3	1. コミュニケーション 2. 個人的表現と文化的表現 3. 振り返り	【理解する・させる】 言語表現が受け手の理解にどのように影響しているかを考え、文法や文章の構成、展開の効果について理解する。 〔知識および技能〕 第1学年 (1)イ・ウ・エ(2)ア・イ(3)ウ・オ 〔思考力、判断力、表現力等〕 第1学年 A 話すこと・聞くこと ア・イ・ウ B 書くこと ア・イ・ウ・エ・オ C 読むこと エ・オ	コミュニケーションエラーに関するエッセイ 【A】言語の使用などが受け手に与える影響について要因を特定し、言語的視点をもって分析する。 【B】段落構成など組織的構造を適切に利用するとともに、自分の考察に必要な根拠を適切に示し、一貫性のある論理的方法で整理する。 【D】適切な語彙を用いて、ふさわしい文体と表現を使用する。また漢字で書くべきところは正しく書き、句読点等にも留意しながら、正確な文法、綴りなどを用いる。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A 2. B-9
後期 (10月～3月)	4	1. 創造性 2. 個人的表現と文化的表現 3. 創造的思考スキル	【合意形成】 自分の意見に根拠を持ち、効果的に相手に伝え、理解し、新たなアイデアを生み、合意を形成するプロセスを探究する。 〔知識及び技能〕 第1学年 (1)ア(2)ア 〔思考力、判断力、表現力等〕 第1学年 A 話すこと・聞くこと ア・イ・ウ・エ・オ	「話し合い」と「話し合いの振り返り」 【B】話し合うために必要な情報の整理や思考の構成を可視化し、議論の発展につなげる。また、効果的に洗練された結論を出すことに貢献する。 【C】個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、を示すテキストを創作する。言語的表現の観点から受け手を意識したスタイルを選択する。 【D】状況に応じた声の大きさを意識し、非言語コミュニケーション等を用いて効果的に話す。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. B-10
	5	1. コミュニケーション 2. 時間的空間的位置づけ 3. メディアリテラシー	【いにしえの人々の心】 古典作品における表現の特徴にふれる。 〔知識及び技能〕 第1学年 (1)ウ(3)ア・イ 〔思考力、判断力、表現力等〕 第1学年 B 書くこと ウ C 読むこと イ・ウ・エ・オ	古典作品の読解に必要な文語の決まりや様々な種類の作品があることを知り、古典の世界観や表現の美しさなどを考える。 【評価対象には含めません】	

※〔知識及び技能〕(1)語彙・漢字・言葉遣い(2)情報(3)書写・読書の内容については、上記に示されていない場合も適宜取り扱う。